

地域体育指導者に関する研究

— 公営体育館と学校開校の指導者の条件 —

福 元 和 行

(昭和57年5月31日受理)

緒 言

地域社会における増大し、多様化した運動欲求に対応し地域体育指導者の活発な活動、またその基礎資料となる研究の必要性も高まっている。ところで、体育指導者の資質の向上、そのための研究の重要性はしばしば指摘されるところであるが、資質をとりあげた研究は極めて少ないと言える。

指導者の資質を問題にする場合、体育事業が有力な観点となる。つまり、体育事業別に、クラブ、スポーツ教室、施設開放の指導者に要求される資質を探り、それらの異同を明確にすることが指導者の体系的理解のために必要なことであり、また指導者の養成、研修に対して大きな手がかりを与えるものと考えられる。

施設開放では施設開放利用者の希望の分析より、性、年齢、運動生活などにより指導者の必要性、希望する指導内容、方法に差異の見られることが明らかになっている⁽¹⁾。

ところでこれらは運動者の属性により指導者に対する希望が異なることを示してはいるが、施設単位で運動者の希望を把握している訳ではない。性、年齢などを指導の目安に出来るとは言っても、施設の違いによる運動者の差異、つまりどのような施設にはどのような運動者が多いのか、またどのような希望を持っているのか、を把握することは指導の際の大きな手がかりを与えるものと考えられる。

ところで施設にもいろいろな種類があるが、本研究は公営体育館の開放と学校体育館の開放に焦点をあて、その利用者間にどのような相異が見られるのか、そしてさらに、公営体育館と学校体育館の開放の指導の間には、利用者の希望から見た場合どのような共通点があり、またどのような相異点がみられるのかを明らかにしようとする。

公営体育館は施設の構造論の中で地域運動施設として、また学校運動施設は近隣運動施設として位置づけられ⁽²⁾、両施設のサービスエリアは異なる。また各施設の持つ特徴も異なっていると考えられる。学校体育館は一般的に、施設の備えた条件が公営体育館ほど整備されたものではないが、「学校体育館のエリア・サービスは運動者行動の狭い、具体的には、家の近くの空地などで運動している者によって気軽に利用されており、そのような運動者に機能することが学校開校ではまず重

視されなければならないと言える。⁽³⁾と指摘されるように、身近にあり、手軽に利用出来るという特徴をもつ。そのため運動欲求をかなりもちながらも体育館開放を利用するまでに至っていなかった運動者などが利用している可能性が考えられる。これらの運動者が利用していると考えられる学校体育館開放と公営体育館の開放の利用者の間には、運動目的や運動経験などにどのような相異が見られるのであろうか。また、学校開放はコミュニティづくり、仲間とのふれ合いの場としてとらえることが出来る。そこでは、家族による活動、近隣の運動者と連れだつての活動が多いのではなかろうか。

本研究ではこれらのことも明らかにしながら、以下のステップを踏むことになる。

1. 公営体育館開放と学校体育館開放の利用者間に、性、年齢、運動目的など運動をめぐる主体的条件に差が見られるかを探る。
2. それらの差が指導者の必要性、希望する指導方法、指導者像などにどのように影響しているかを検討する。
3. それらの結果より、各施設の指導者に望まれるあり方、条件を検討する。

研究方法

研究方法としては、公営体育館開放、小学校体育館開放の利用者に対して質問紙を配布し、その場で回収した。これらの開放施設には指導者は配置されていない。また、スポーツクラブや団体に対する開放ではなく、個人を対象とした開放を実施している。

調査時間 昭和56年8月

調査対象 体育館開放利用者 101名

小学校体育館開放利用者 46名

なお、統計的な処理の上で用いられた検定は、 2×2 分割表および $2 \times n$ 分割表によるカイ自乗検定である。

結果および考案

I. 運動者の主体的条件

1. 男 女

両施設の男女別利用者の割合を示したのが表1である。体育館（公営体育館の略）開放では男子46.8%，女子53.2%であり、学校（学校体育館の略）開放では、男子28.9%，女子71.1%となっている。

表1 男女別にみた利用者の割合*

	(1)体育館開校	(2)学校開放	(2)/(1)
男	46.8%	28.9%	0.62
女	53.2%	71.1%	1.34
計 (=100%)	(94)	(45)	

* $P < .05$

体育館、学校とも女子の利用者の割合が大きいですが、特に学校開放において女子の割合が高い。また、体育館開放、学校開放の比較では男子は体育館開放利用者に多く、女子は学校開放利用者に多くなっている。

2. 年 令

両施設の開放の利用者の年令をみたのが表2である。体育館開放では全ての年代層の利用者が利用している。

一方、学校開放の利用者では、25才～29才から50才～59才までとなっており、体育館開放と比較して利用者の年令の幅が狭くなっている。

表2 年令別にみた利用者の割合**

年 令	体育館開放	学 校 開 放
～14	3.0%	
15～19	9.9	
20～24	19.8	
25～29	19.8	15.2%
30～34	20.8	23.9
35～39	10.9	30.4
40～44	12.9	15.2
45～49	2.0	13.0
50～59	1.0	2.2
計 (= 100%)	(101)	(46)

** $P < .01$

体育館は昼間、夜間とも開放されるのに対して、学校開放は夜間開放が中心であるため、このような結果が生じているものと考えられる。

また、学校開放の利用者の年齢は体育館開放の利用者よりもやや高い傾向が表われている。

3. 運動目的

表3は運動目的を表わしており、次のような傾向が認められる。

体力づくりを運動目的とする者は体育館開放で男子13.6%、女子28.0%、学校開放では男子23.1%、女子31.3%となっており、いずれも学校開放に多く見られる。

技術の向上を運動目的とする者は、体育館開放で男子15.9%、女子14.0%、学校開放では男子7.7%となっている。また計では体育館開放は学校開放と比較して7倍近い割合となっており、体育館開放の利用者に運動技術の向上に関心をもつ者の多いことがわかる。

運動を楽しむためとする者は、体育館開放で男子45.5%、女子40.0%、計42.6%、学校開放で男子46.2%、女子50.0%、計48.9%となっており、学校開放の利用者に多くみられる。

友人をつくることを運動目的とする者は、体育館開放で男子2.3%、女子10.0%、計6.4%、学校開放では男子15.4%、女子15.6%、計15.6%となっており、友人をつくることを運動目的とする者が体育館開放と比較して学校開放に2倍以上いることがわかる。

クラブの練習として開放施設を利用している者は、体育館開放で男子22.7%、女子8.0%、計14.9%であり、学校開放では男子7.7%、女子3.1%、計4.4%となっており体育館開放に多くみられる。

表3 運動目的別にみた利用者の割合*

	体育館開放			学校開放			(2)/(1)
	男	女	(1)計	男	女	(2)計	
体 力	13.6%	28.0%	21.3%	23.1%	31.3%	28.9%	1.35
技 術	15.9	14.0	14.9	7.7		2.2	0.14
楽 し さ	45.5	40.0	42.6	46.2	50.0	48.9	1.14
友人をつくる	2.3	10.0	6.4	15.4	15.6	15.6	2.43
クラブ練習	22.7	8.0	14.9	7.7	3.1	4.4	0.29
計 (=100%)	(44)	(50)	(94)	(13)	(32)	(45)	

* P<.05

このように、両開放施設において運動目的をめぐってかなりの差異がみられたが、両施設の特徴に大きく関係しているものと考えられる。つまり、地域運動施設としての公営体育館と近隣運動施設としての学校体育館の持つ機能の違いがこの運動目的の差異に関係していると考えられる。学校開放施設は身近にあり、手軽に利用出来るという特徴をもつが、体力、健康に不安を感じている人が、身近にあるため、手軽に利用しているものと考えられる。また、友人をつくるという運動目的では、体育館開放がそのサービス・エリアが学校開放に比較して、より広いため利用者もより広い範囲から施設に接近するが、学校開放では体育館開放に較べて、より狭い範囲内での利用者が多いものと考えられる。したがって、体育館開放利用者よりも地域性が濃厚であり、学校開放の利用を媒介として形成した運動仲間としての関係を日常生活へ運び込む可能性が高い。また、友人と運動を楽しみたい場合にも、身近にあるという点から利用されていると考えられる。楽しさについては、両開放施設ともかなりの割合でみられ、地域体育の特徴を示すものであるが、特に、学校開放に多く見られる。

一方、体育館開放は学校開放に較べて施設が広く大きく、種々の設備が完備しているなど施設としての条件は整備されているが、表4に表われた様に、学生時代の運動経験でクラブに所属し活動していた者が多く、学生時代と同様、競技志向の者が多いものと考えられる。そのため、技術習得、向上を運動目的としており、また体育館開放をクラブの練習の場として利用しており、学校開放ほど体力づくりや友人づくりに関心が向いていないものと考えられる。

4. 学生時代の運動経験

表4は学生時代の運動経験を表わしたものであるが、当該種目の運動クラブに所属し活動したとする者は体育館開放で男子36.6%、女子37.5%、計37.1%、学校開放では男子23.1%、女子9.7%、

表4 学生時代の運動経験別にみた利用者の割合*

	体育館開放			学校開放			(2)/(1)
	男	女	(1)計	男	女	(2)計	
クラブ	36.6%	37.5%	37.1%	23.1%	9.7%	13.6%	0.37
校内大会	9.8	8.3	9.0	23.1	6.5	11.4	1.27
授業	7.3	27.1	18.0	38.5	32.3	34.1	1.89
経験なし	46.3	27.1	36.0	15.4	51.6	40.9	1.14
計(=100%)	(41)	(48)	(89)	(13)	(31)	(44)	

* $P < .05$

計13.6%となっており、男女ともクラブ経験者が体育館開放利用者に多いことがわかる。また計では、クラブ所属経験をもつ開放利用者は、体育館開放において、学校開放の約2.7倍利用していることになる。

クラブには所属していなかったが、校内のスポーツ大会等で活動していたとする者は体育館開放で男子9.8%、女子8.3%、計9.0%、学校開放で男子23.1%、女子6.5%、計11.4%となっており、学校開放利用者に多くみられる。

授業で運動した程度とする者は、体育館開放で男子7.3%、女子27.1%、計18.0%、学校開放では男子38.5%、女子32.3%、計34.1%となっており学校開放に多くみられ、体育館開放の約1.9倍となっている。

当該種目について学生時代運動経験がなかったとする者は、体育館開放で男子46.3%、女子27.1%、計36.0%、学校開放では男子15.4%、女子51.6%、計40.9%であり、学校開放の利用者に多い。

学生時代の運動経験は将来の運動生活に重要な影響を及ぼすが、技術、知識などを比較するとクラブに所属し活動していた者が最も高く、次いで校内大会、授業と続いていくと考えられる。表4の結果をこのように解釈すると、運動経験の豊富な者が体育館開放に多く、学校開放の利用者には体育館開放の利用者ほど運動経験の豊かな人が多くないと考えられる。

表5は学生時代の運動経験別にみた運動目的であるが、体力づくりを目的とする者は割合の高い順に、当該種目の運動経験のなかった者(31.4%)、授業で行なった程度とする者(28.1%)、校内大会で運動したとする者(23.1%)、クラブに所属し活動した者(22.0%)となっている。

技術の向上を運動目的とする者は、校内大(15.4%)、経験なし(9.8%)、クラブ(9.8%)、授業(9.4%)と続いている。

運動を楽しむことを目的とする者は、経験なし(47.1%)、クラブ(43.9%)、授業(43.8%)、校内大会(38.5%)と続いている。

表5 学生時代の運動経験別にみた運動目的

	ク ラ ブ	校 内 大 会	授 業	経 験 な し
体 力	22.0%	23.1%	28.1%	31.4%
技 術	9.8	15.4	9.4	9.8
楽 し さ	43.9	38.5	43.8	47.1
友人をつくる	4.9	7.7	12.5	7.8
クラブ練習	19.5	15.4	6.3	3.9
計(=100%)	(41)	(13)	(32)	(51)

友人づくりを目的とする者は授業 (12.5%), 経験なし (7.8%), 校内大会 (7.7%), クラブ(4.9%) となっている。

クラブの練習のため施設開放を利用する者は, クラブ (19.5%), 校内大会 (15.4%), 授業(6.3%), 経験なし (3.9%) となっている。

運動を楽しむという運動目的はどの運動経験を有する人にもかなり見られるが, 他の運動目的については, 運動経験の違いがかなり関係している様である。つまり, クラブに所属して活動していた者や校内大会に参加して活動していた者ほどには豊富な運動経験をもたない者に, 体力づくりや友人づくりの運動目的は重視されていると言える。

また, 運動経験の豊富な者はこれらの運動目的を持つ者が少ない反面, クラブの練習の場として施設開放をとらえている者が多く見られる。なお, 運動経験の豊富な者に技術の向上を運動目的とする者が少なかった点については, 今後の検討を要する。

5. 運動生活

両開放施設における利用者を運動生活の階層別にみたのが表6である。

C運動者は体育館開放で65.3%, 学校開放で63.0%であり, P運動者は体育館開放14.7%, 学校開放4.4%となっている。またA運動者は体育館開放20.0%, 学校開放32.6%である。

検定の結果両施設間に有意な差はみられなかったが, 現在スポーツクラブに所属して活動している者の割合はあまり変わらないとしても, 地域のスポーツ大会やスポーツ教室などのスポーツ行事に参加して運動しているP運動者は体育館開放利用者に多くみられるし, また, 開放施設を利用して活動するA運動者は学校開放に多いと言えよう。

表6 運動生活

	(1)体育館開放	(2)学校開放	(2)/(1)
C	65.3	63.0	0.96
P	14.7	4.4	0.30
A	20.0	32.6	1.63
計 (=100%)	(95)	(46)	

P > .05

表7 活動の仕方

	体育館開放			学校開放			(2)/(1)
	男	女	(1)計	男	女	(2)計	
クラブ員多数	58.1%	47.6%	54.9%	50.0%	51.6%	51.2%	0.93
クラブ員数人	11.6	21.4	17.1		22.6	16.3	0.95
友人	16.3	28.6	23.2	41.7	25.8	30.2	1.30
家族	4.7	2.4	3.7				
その場の人	2.3		1.2	8.3		2.3	1.92
計 (=100%)	(40)	(42)	(82)	(12)	(31)	(43)	

P > .05

6. 活動の仕方

表7は施設利用における活動の仕方を表わしたものである。

クラブ員多数で活動する者は体育館開放で男子58.1%，女子47.6%，計54.9%，学校開放では男子50.0%，女子51.6%，計51.2%となっている。

クラブ員数人で活動する者は体育館開放で男子11.6%，女子21.4%，計17.1%であり，学校開放では女子22.6%，計16.3%となっており，クラブのメンバーと一緒に活動する者は，体育館開放に若干多く見られる。

友人と活動する者は体育館開放で男子16.3%，女子28.6%，計23.2%，学校開放では男子41.7%，女子25.8%，計30.2%となっている。

その場にいた人と活動するとする者は体育館開放で1.2%，学校開放で2.3%となっている。

このように体育館開放では学校開放に較べてクラブの仲間との活動がやや多いが，学校開放では友人との活動やその場にいた人との活動が多く，両施設の特徴が反映しているものと考えられる。

家族との活動は施設の特徴より学校開放に多く見られると考えられるが，表7ではそのような結果になっていない。学校開放が主に夜間に実施された点が影響していると思われるが，検討の必要がある。

7. 技術の難易

当該運動種目の技術の難易についての質問結果が表8に示してある。

技術が難しいとする者は体育館開放で男子47.4%，女子56.3%，計52.2%，学校開放では男子46.2%，女子62.5%，計57.8%となっており，難しいと答えた者は学校開放利用者に多い。

表8 技術の難易

	体育館開放			学校開放			(2)/(1)
	男	女	(1)計	男	女	(2)計	
難 しい	47.7%	56.3%	52.2%	46.2%	62.5%	57.8%	1.11
やや難しい	40.9	39.6	40.2	46.2	37.5	40.0	1.00
簡 単	11.4	4.2	7.6	7.7		2.2	0.29
計(=100%)	(44)	(48)	(92)	(13)	(32)	(45)	

P > .05

やや難しいと答えた者は体育館開放で男子40.9%、女子39.6%、計40.2%、学校開放では男子46.2%、女子37.5%、計40.0%となっており、両施設でほとんど同程度である。

簡単である、とする者は体育館開放で男子11.4%、女子4.2%、計7.6%、学校開放では男子7.7%、計2.2%となっており、技術が簡単とする者は体育館開放の利用者に多いことがわかる。

統計的に有意な差は認められなかったが、このように学校開放には難しいとする者が多く、また体育館開放には高い技術をもったものが多いということは、学生時代の運動経験、運動生活などをみると、首肯できるところである。

8. ルールの難易

当該運動種目のルールの難易について表9に示してある。

難しいとする者が体育館開放で男子11.6%、女子8.7%、計10.1%、学校開放では男子7.7%、女子16.7%、計14.0%となっており学校開放に難しいとする者が多い。

表9 ルールの難易*

	体育館開放			学校開放			(2)/(1)
	男	女	(1)計	男	女	(2)計	
難 しい	11.6%	8.7%	10.1%	7.7%	16.7%	14.0%	1.39
やや難しい	41.9	50.0	46.1	53.9	70.0	65.1	1.41
簡 単	46.5	41.3	43.8	38.5	13.3	20.9	0.48
計(=100%)	(43)	(46)	(89)	(13)	(30)	(43)	

* P < .05

やや難しいとする者は体育館開放で男子41.9%，女子50.0%，計46.1%であり，学校開放では男子53.9%，女子70.0%，計65.1%となっている。やや難しいとする者は難しいとする回答と同様，学校開放利用者に多く見られる。

簡単と答えた者は体育館開放の男子46.5%，女子41.3%，計43.8%となっており，学校開放では男子38.5%，女子13.3%，計20.9%である。ここでは前の回答とは逆に，体育館開放利用者にルールが簡単であるとする者が多くいることがわかる。

以上のように，ルールの難易をめぐるのは学生時代の経験が関係し，学生時代の運動経験の豊かな者の多い体育館開放利用者にルールが難しいとする者が少なく，簡単であるとする者が多くなっている。また，運動経験に恵まれない人の多い学校開放利用者にルールが難しいとする者が多く，簡単であるとする者が少なくなっている。

II. 運動者の希望

1. 指導者の配置希望

表10は指導者の配置希望を表わしたものである。

指導者がいた方がよいとする者は体育館開放で男子86.4%，女子90.0%，計88.3%であり，学校開放では男子93.3%，女子68.8%，計75.6%となっている。

管理人でよいとする者は体育館開放で男子13.6%，女子10.0%，計11.7%であり，学校開放では男子7.7%，女子31.3%，計24.4%である。

指導者がいた方がよいとする者は体育館開放利用者に多く，管理人で十分とする者は学校開放利用者に多くみられたが，有意な差は認められなかった。

表10 指導者の配置希望

	体育館開放			学校開放			(2)/(1)
	男	女	(1)計	男	女	(2)計	
指導者がいた方がよい	86.4%	90.0%	88.3%	92.3%	68.8%	75.6%	0.86
管理人で十分である	13.6	10.0	11.7	7.7	31.3	24.4	2.09
計 (=100%)	(44)	(50)	(94)	(13)	(32)	(45)	

$P > .05$

2. 指導者の必要性

配置希望が指導者を配置した方がよいか，管理人で十分かについてであったが，配置する場合にどのように配置したらよいかを問うたものが表11指導者の必要性である。

表11 指導者の必要性*

	体育館開放			学校開放			(2)/(1)
	男	女	(1)計	男	女	(2)計	
常に必要	32.4%	45.5%	39.5%	27.3%	77.3%	60.6%	1.53
必要な時	67.6	54.6	60.5	72.7	22.7	39.4	0.65
計 (=100%)	(37)	(44)	(81)	(11)	(22)	(33)	

* P<.05

施設開放の場に常にいてほしいとする者は体育館開放で男子32.4%、女子45.5%、計39.5%である。また学校開放では男子27.3%、女子77.3%、計60.6%となっており、学校開放の利用者に常に開放施設にいて指導してほしいと考えている者の多いことがわかる。

必要な時だけいてくれればよいとする者は体育館開放で男子67.6%、女子54.6%、計60.5%であり、学校開放では男子72.7%、女子22.7%、計39.4%となっている。体育館開放利用者に必要な時だけいてくれればよいとする者が多く見られる。

表12は学生時代の運動経験別にみた指導者の必要性である。クラブに所属して運動していた者は計で常に必要とする者33.3%、必要な時いてくれればよいとする者66.7%である。

校内競技大会に参加して運動していた者では常に必要とする者40.0%、必要な時にいてくれればよいとする者60.0%でクラブ経験者と同様、必要な時にいてくれればよいとする者の割合が上回っている。

表12 学生時代の運動経験別にみた指導者の必要性

	体育館開放				学校開放				計			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
常に必要	30.8%	42.9%	52.9%	46.9%	50.0%	33.3%	64.3%	75.0%	33.3%	40.0%	58.1%	54.5%
	69.2	57.1	47.1	53.1	50.0	66.7	35.7	25.0	66.7	60.0	41.9	45.5
計 (=100%)	(26)	(7)	(17)	(32)	(4)	(3)	(14)	(12)	(30)	(10)	(31)	(44)

- 1：クラブに加入して運動していた者。
- 2：校内大会に参加して運動していた者。
- 3：授業で行った者。
- 4：経験したことがなかった者

授業で行なったとする者では常に必要とする者が58.1%，必要な時にいてくれればよいとする者が41.9%で常に必要と感じている者が上回っている。

学生時代に経験したことがなかったとする者では，常に必要とする者54.5%，必要な時にいてくれればよいとする者45.5%であり，授業で行なったとする者と同様，常に必要とする者が多くなっている。

このように運動経験のさほど豊かでない者には常に指導者の必要性を感じている者が多く，また学生時代の運動経験の豊富な者は，ある程度の技術や知識を身につけているため，運動経験に恵まれない者ほどには指導者の必要性を感じていない。そのため，必要な時だけいてくれればよいとする回答が多くなっているものと考えられる。

3. 望まれる指導方法

望まれる指導方法についてその結果が表13に示してある。

積極的に指導者の側から指導してほしいとする者は体育館開放で男子24.2%，女子32.5%，計28.8%，学校開放では男子16.7%，女子50.0%，計35.7%となっており，学校開放の利用者に指導者の積極的な指導を期待する者が多いことがわかる。

利用者の求めに応じた指導を期待する者は体育館開放で男子75.8%，女子67.5%，計71.2%であり，学校開放では男子83.3%，女子50.0%，計64.3%となっている。このように体育館開放利用者に求めに応じた指導を期待する者が多くなっている。

表13 望まれる指導方法

	体育館開放			学校開放			(2)/(1)
	男	女	(1)計	男	女	(2)計	
積極的に進んで	24.2%	32.5%	28.8%	16.7%	50.0%	35.7%	1.24
求めに応じて	75.8	67.5	71.2	83.3	50.0	64.3	0.90
計 (=100%)	(33)	(40)	(73)	(12)	(16)	(28)	

$P > .05$

4. 望まれる指導者像

施設開放利用者は指導者としてどのような人を期待しているかを示したのが表14である。

運動を上手に指導出来る人を指導者として希望する者は，体育館開放で男子27.3%，女子30.4%，計29.0%である。また学校開放では男子31.6%，女子25.0%，計27.9%となっており，両開放施設の比較では若干，体育館開放の利用者に希望者が多い。

表14 望まれる指導者像

	体育館開放			学校開放			(2)/(1)
	男	女	(1)計	男	女	(2)計	
運動を上手に指導できる人	27.3%	30.4%	29.0%	31.6%	25.0%	27.9%	0.96
楽しさを指導できる人	36.4	41.1	39.0	47.4	50.0	48.8	1.25
体力づくりを指導できる人	27.3	17.9	22.0	10.5	16.7	14.0	0.64
各種スポーツ活動の企画、 運営のできる人		8.9	5.0	5.3	8.3	7.0	1.40
スポーツの理論に精通した人	9.1	1.8	5.0	5.3		2.3	0.46
計 (=100%)	(44)	(56)	(100)	(19)	(24)	(43)	

$P > .05$

運動の楽しさを指導出来る人を希望する者は、体育館開放の男子36.4%、女子41.1%、計39.0%であり、また学校開放では男子47.4%、女子50.0%、計48.8%で学校開放の利用者に楽しさを指導出来る人を希望する者が多くみられる。

体力づくりを指導出来る人を希望する者は体育館開放で男子27.3%、女子17.9%、計22.0%となっており、学校開放では男子10.5%、女子16.7%、計14.0%である。表3 運動目的で体力づくりを目的としてあげた者は学校開放利用者に多くみられたが、体力づくりを指導できる人を指導者として希望する者は体育館開放利用者に多いという結果を示しており、運動目的と希望する指導者像とが直接的に直びついていない結果となっている。その理由については今後検討を加える必要がある。

スポーツの理論に精通した人を求める者は体育館開放で5.0%、学校開放では2.3%となっており、運動経験が豊富で技術の向上を運動目的とする者の多い体育館開放に多く見られる。

結 語

運動者の主体条件、希望を分析しながら公営体育館と学校体育館の開放の指導者のあり方、条件を探ってきたが、結果を要約すると以下ようになる。

1. 公営体育館開放利用者には学校体育館開放利用者と比較して男子が多く、年齢も幅広い。運動目的では技術の向上、クラブの練習といった技術に関連した目的を持つ者が多い。また、学生時代の運動経験の豊かな者が多く、技術や知識をかなりの程度まで身につけた者が多いと考えられる。そのため指導者の必要性は学校体育館の開放ほど高くないと言えるが、学校体育館開放指導者よりも高度な運動の技術や知識を指導出来る方が望ましいと考えられる。

2. 学校体育館開放利用者には公営体育館開放利用者と比較して、女子が多く、年齢もやや高い傾向がみられた。そして、学生時代の運動経験では公営体育館利用者ほど豊かな学生時代の運動経験を持たない者が多く、そのため指導者の必要性を公営体育館開放利用者よりも強く感じている。また指導者は公営体育館開放の指導者ほど高度な運動技術や知識の指導を要求されることは少ないと考えられる。

運動目的を運動を楽しむことに置く者は両施設に多く見られたが、特に学校体育館開放利用者に多く、望まれる指導者像でも楽しさを指導出来る人が高い割合を得ている。このように学校体育館開放においては、運動の楽しさに魅力を感じ運動する者が多く、指導の際強い配慮が加えられる必要がある。

本研究は地域体育指導者の養成、研修、あるいは指導体制づくりのための基礎資料を得るための体育経営学的立場からの研究であったが、問題点もいくつか残されている。

運動目的と望まれる指導者像とが直接的に関連していない部分が見られるなど、不明な点もあり、更に検討が必要である。

また、指導者の配置されていない施設を対象として選択し、調査を実施したが配置された施設での結果と比較、検討し施設開放指導者のあり方を追求していく必要がある。

さらに地域体育指導者の体系を考える上で、スポーツクラブ、スポーツ教室の指導者についても検討を加え、その条件を明確にする必要があるが、これらも今後に残された研究課題としたい。

注

- (1) 福元和行：「地域体育指導者に関する研究—特に，施設開放指導者の役割を中心に」，鳥取大学教養部紀要，第15巻，昭和56年
- (2) 宇土正彦：現代保健体育学大系5，体育管理学，大修館書店，昭和45年，P.322
- (3) 中村 平：「運動施設の誘致距離に関する研究—地域体育における施設経営」，体育学研究，第24巻第2号，昭和54年9月，P.124

参考文献

- 宇土正彦：体育管理学 大修館書店 昭和45年
- 宇土正彦他著：体育管理学入門 大修館書店 昭和51年
- 宇土・八代他：「社会体育指導者に関する研究—とくに求められる能力・知識・指導行動について」筑波大学体育紀要 第2巻 昭和54年
- 八代・中村・片山：「公営体育館における運動行動に関する研究」東京教育大学体育学部紀要 第15巻 昭和51年3月
- 中村平：「運動施設の誘致距離に関する研究—公営体育館の体育経営」体育学研究 第24巻第2号 昭和52年7月
- 体育社会学研究会編：体育社会学研究5「体育・スポーツ指導者の現状と課題」道和書院 昭和55年
- 社会体育研究会編：スポーツクラブ 新宿書房 昭和54年
- 平沢薫，桑野豊：生涯スポーツ プレスギムナスチカ 昭和52年
- 江橋慎四郎，桑野豊：社会体育の実践 第一法規 昭和56年
- 社会体育研究会編：これからのコミュニティ・スポーツ，ぎょうせい 昭和52年

